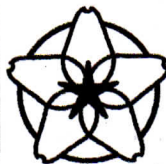
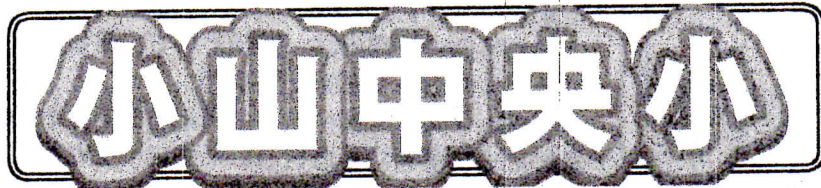


2018年8月30日  
町田市立小山中央小学校  
校長 岡部 ひとみ

9月号



## 「命に関わる暑さ」

校長 岡部 ひとみ

この夏は、「酷暑」「命に関わる暑さ」など、日本の気象上では聞き慣れない言葉が行き交いました。気象庁によると6～8月の平均気温は、東日本では平年値を1.6度上回り、統計を取り始めた1946年以降、最も高くなったそうです。太平洋高気圧の張り出しが強く、偏西風が蛇行し、本州付近が暖かい空気に覆われたことが影響したとみられます。

7月上旬には、西日本豪雨があり甚大な被害を受けました。被災地の小中学校においては、傷が癒えないまま、夏季休業日に入ったとの報道がありました。

東日本においても、夏休み当初の一週間は高温・多湿のため、これまでの「猛暑」では言い表せない暑さとなり、熱中症による被害は想像を超えるものでした。本校においても水泳指導やサマースクールの運動系・外での活動を中止させていただきました。

水泳指導初日のプールサイドでは、気温35度、熱中症指標計(WBGT)で31度以上、「特に子供の運動は原則禁止」という範囲が表示されました。学校としては、夏季水泳指導を低・中・高学年の三部制にし、泳力指導に力を入れていこうと体制を整えていたところでしたので、地球環境の変化に無念さを感じました。一般的には、気温が高い時には入水した方が、体温は下がるだろうと考えがちですが、プールは直射日光が当たる上に、水の中にいるために汗をかいても気付きにくく、脱水症状や熱中症につながる危険性があるとも言われています。そして、その時の週間予報を鑑みても、気温の下がる気配は見られなかったです。「命に関わる暑さ」を念頭に、登下校のことも考慮し、中止の判断をさせていただきました。

さらに、開放プールにおいては、毎日の1回目の低学年は実施可能でしたが、中・高学年児童の指導回数は限られてしまいました。「学年サイクルを変更してはどうか？」というご意見もいただきましたが、混乱をもたらすという懸念もあり、今夏は当初通りに進めました。

夏休み後半の水泳指導では、台風の発生はありましたが、高学年の回数も確保でき安堵したところです。

「命に関わる暑さ」という中での夏季休業のあり方について、考えさせられる夏でした。文部科学省からは、熱中症対策はもちろん、終業式・始業式の会場についても指導が入りました。今年度の反省を踏まえ、次年度の計画づくりに努めます。

異常気象・プラスチック処理などの環境問題は、現代の大いなる課題です。総合的な学習の時間をはじめ、環境に対して課題追究をし、今できること、何を大切にするのか、子供たちに理解を深めさせていきます。

2学期には、運動会・作品展と大きな行事が続きます。子供たち一人一人の成長を願い、教職員一同、力を合わせて指導していきます。

## 勝ちも負けも自分の財産に

運動会委員長 滝 裕暁

今年も運動会の季節がやってきました。日本では、ほぼすべての学校で運動会が開かれており、一年の中でも大きな行事の一つとされています。運動会には、一人で力を発揮する競技から、全校で力を合わせる種目があります。運動が得意な子も、そうでない子も楽しめるように工夫されているのです。

しかし、真剣勝負の競技では、勝つ子と負ける子が必ずいます。これはとても大切なことです。勝ったら嬉しい、負けたら悔しい。それはあたりまえのことです。でも、負けるからこそ勝ちたいと思うことができ、勝った時の喜びを味わうことができます。そして、負けた子を馬鹿にすることはありません。どんなに上手いかわかなくても、失敗しても、最後までゴールを目指す姿が本当の勝利です。

9月、子供たちは運動会を迎えます。今年も、本番に向けて一生懸命練習をし、強い思いをもって臨んでくれることでしょう。どのような結果であっても、これからの生き方にプラスになるよう、心の宝を積み重ねていきたいと考えています。今年度も御協力をよろしくお願いいたします。